大岡の風２月

令和６年１月３１日
横浜市立大岡小学校
TEL （７１１）０８１８
FAX （７１３）３５６３

防災教育の重要性 ～防災意識と防災行動～

校長　馬渡　照代

先月、延期されていた５年生の球技大会が無事開催されました。チームプレーに徹し、ミスをしても互いに励まし合って試合に臨む子どもたちを見ていると、つい応援にも力が入ってしまいました。井土ケ谷小の子どもたちと交流を深めることもでき、有意義な大会となりました。

さて、能登半島地震から１ヶ月が経ちましたが、皆様もご承知の通り、被災地は未だ本格的な復興には至っておらず、多くの人々は、生活再開の目途が立たない状況が続いています。そして、寒い中、多くの方々が、避難所での生活を余儀なくされています。学校が再開できずに、100 キロ離れた場所に避難し、親元を離れて中学校生活を送る子どもたちも、たくさんいます。本当に、毎日報道を見ては、心が痛むばかりです。

輪島市では、平安時代に始まり千年の歴史を誇る輪島の朝市が、地震による大規模火災で焼失してしまいました。多くの方々が亡くなり、数多くの店や家族の暮らす家が焼けてしまいました。焼失面積は、東京ドームより広いと言われています。最初は小さな火事だったのに、あっという間に燃え広がったそうです。「ちょろちょろと火が出ていた。『あんな小さい火なら、すぐ消える』と皆言っていたが、だんだん火がでかくなった。ただ涙が出る、悲しくてね。本当に火事を恨みます。火事さえなければ。」と、助かった方は、お話しされていました。

なぜ、これほどまでに被害が広がったのでしょうか。大きな理由として、地震により大津波警報が発表されたことで住民らが避難を余儀なくされたため、初期消火が十分に行えなかったこと、そして、断水に加え、津波の引き潮によって川にも消火する水がなかったことがあげられます。そのため、最初は範囲が小さかったものの木造の住宅も多く、一気に燃え広がってしまいました。「消防車の人が『水がないから消火できない』と言うから、ぼうぜんと見ているだけ。(後略)」この言葉が、全てを物語っています。

私は、輪島の朝市を訪れたことがあります。「朝市通り」と呼ばれる商店街に、１番多い時で 200 以上の露店が立ち並び、地元の人から観光客まで数多くの人々が訪れ、朝早くから活気溢れる素敵な朝市でした。呼び声に誘われてついついたくさんの物を買ってしまった、という楽しい思い出もあります。いつかもう１度行ってみたいと思っていた場所でもありましたので、残念で仕方がありません。でも、もっと辛く大変な思いをされているのは、北陸地方の人々です。被災された皆さんが安心して暮らせるように、１日も早く復興することを願うばかりです。(情報は、「FNN プライムオンライン」から)

このように、災害は、いつ・どこで起きるか分かりません。そのため、大岡小学校では、年間７回避難訓練を行っており、「地震」「火事」「不審者対応」など、多様な場面を想定して実施しています。もちろん、地域の防災訓練にも、子どもたちを始め教職員も参加させていただいています。能登地震について、ニュースでは「複合災害」という言葉が聞かれました。複合災害とは、複数の災害がほぼ同時に発生することで、能登地震では、「地震から火事、津波」などが発生し、正にその言葉通りでした。本校でも、「地震から津波、または火事」を想定した訓練を実施しています。第６回目では、地震から津波が発生したと想定して、一斉に３階まで避難する訓練を実施しました。

今月で最後となる第７回目は、今までの訓練の総仕上げということもあって、日時や場所について子どもたちには知らせず、「予告無し」という形で行います。地震などの災害は、先述の通り時や場所を選びませんし、子どもたちが、学校以外の場所にいるときに発生することもあります。そんな時こそ、日頃の訓練の成果を発揮して、冷静に自分で考えて行動できる子であって欲しいと思います。いつの訓練でも、本校の子どもたちは真面目に真剣に取り組んでいますので、最後の予告無しの訓練でも、落ち着いて「自分の身や命は自分で守る。」を実践してくれることと期待しています。

先月の ANI 委員会では、子どもたちから例年この時期行っているユニセフ募金に代わって、今年は、能登地震で被災された方々のために募金をしたいという申し出があり、実施することに決定しました。期間は、２月５日（月）から２月 19 日（月）までです。保護者の皆様も、子どもたちの趣旨に賛同していただけたら幸いです。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。